

# 【姫路市立飾磨幼稚園】の取組

## 1 テーマ

主体的・対話的で深い学びについて考える。

— 学びの読み取りと教師の援助 —

## 2 テーマ設定の理由

本園の幼児は、明るく素直で、いろいろなことに興味をもって生活している。自主的に活動はしているが、教師とともに遊びを展開している姿もあり、一つの遊びに集中したり、物事に没頭したりして楽しむ姿はあまり見られず、「主体性」が望まれた。主体的に物事に取り組むためには、意欲や根気強さ、相談する、折り合いを付ける、和解するなど非認知能力を伸ばすことが重要である。

また、自分とは違う他者の存在に思いを馳せながら他者の考えを確認し、自分の思いを振り返る「対話」の相手は「ひと」だけでなく「もの」や「こと」との応答も関係すると考えた。

環境構成の見直しと教師の援助について話し合いを通して、主体的・対話的な学びを読み取っていきたくとテーマを設定した。

## 3 研究経過

### (1) 1年次(平成31年度)の取組

- ①「主体的な学び」「対話的な学び」について考え、共通理解をする。
- ②幼児の学びを意識した年間計画を作成する。
- ③神戸常盤大学 多田琴子教授を招聘して公開保育をし、遊びの場の構成や教師の役割・援助について考える。
- ④保育実践を幼児の学びに視点を当て、振り返り、学びを読み取る。

### (2) 2年次(令和2年度)の取組

- ①「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」(幼稚園教育要領解説)を参考に「幼児の学び」の表を作成する。

1健康な心と体	2自立心	3協同性	4道徳性・規範意識の芽生え	5社会生活との関わり
<ul style="list-style-type: none"><li>・安心感</li><li>・安定感</li><li>・信頼関係</li><li>・生活行動(着脱・食事・排泄)</li><li>・生活習慣</li><li>・体を動かす気持ちよさ</li><li>・多様な動き</li><li>・身のこなし</li><li>・危険回避</li><li>・自分の体を知る</li><li>・食べ物への関心</li><li>・見通しをもつ</li><li>・充実感</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・自我の芽生え</li><li>・意欲</li><li>・自分で考える力</li><li>・満足感</li><li>・充実感</li><li>・自信</li><li>・積極性</li><li>・挑戦</li><li>・試行錯誤</li><li>・継続する力</li><li>・粘り強さ</li><li>・乗り越える力</li><li>・やり遂げる力</li><li>・達成感</li><li>・認め合う</li><li>・見通しをもつ</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・信頼関係</li><li>・友達との関わり</li><li>・思いを伝える</li><li>・思いや考えの共有</li><li>・自己主張</li><li>・自己抑制</li><li>・折り合いをつける</li><li>・相手の気持ちの受容</li><li>・認め合う</li><li>・共通の目的</li><li>・協力</li><li>・試行錯誤</li><li>・自己発揮</li><li>・新しい考えを生み出す</li><li>・役割分担</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・善悪が分かる</li><li>・きまり(ルール)を守る</li><li>・物を大切にする</li><li>・自己発揮</li><li>・自己抑制</li><li>・相手の立場に立つ</li><li>・葛藤、自分への向き合い</li><li>・相手の気持ちの受容</li><li>・折り合いをつける</li><li>・思いやり</li><li>・共感</li><li>・きまり(ルール)をつくる</li><li>・感謝の気持ち</li><li>・多様性を認める</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・家族を大切にする</li><li>・信頼関係</li><li>・異年齢との関わり</li><li>・地域の人との触れ合い</li><li>・地域に親しむ</li><li>・社会への関心</li><li>・相手に応じた言葉や振る舞い</li><li>・役に立つ喜び</li><li>・公共施設の利用</li><li>・情報収集</li><li>・情報活用</li><li>・調べる力</li><li>・文化交流</li></ul>

<b>6</b> 思考力の芽生え	<b>7</b> 自然との関わり・生命尊重	<b>8</b> 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	<b>9</b> 言葉による伝え合い	<b>10</b> 豊かな感性と表現
<ul style="list-style-type: none"> <li>・好奇心</li> <li>・探求心</li> <li>・発見</li> <li>・予想、予測</li> <li>・工夫</li> <li>・試行錯誤</li> <li>・比べる</li> <li>・分類</li> <li>・自分以外の考えに気付く</li> <li>・自分で判断する</li> <li>・考え直す</li> <li>・新しい考えを生み出す</li> <li>・解決する力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・好奇心</li> <li>・探求心</li> <li>・自然の事象や現象への関心</li> <li>・変化に気付く</li> <li>・自然への愛情や畏敬の念</li> <li>・動植物への愛着</li> <li>・生命の不思議、尊さ</li> <li>・いたわり</li> <li>・五感で感じる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数える</li> <li>・比べる</li> <li>・発見</li> <li>・分類</li> <li>・空間認識</li> <li>・文字、数量の知識</li> <li>・数の調整</li> <li>・文字の読み書き</li> <li>・規則性、法則性、関連性等の発見</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・模倣</li> <li>・挨拶</li> <li>・絵本、物語に親しむ</li> <li>・思ったことを言葉にする</li> <li>・生活に必要な言葉が分かる</li> <li>・状況に応じた適切な言葉の表現</li> <li>・相手の話を聞く</li> <li>・話の理解</li> <li>・共有</li> <li>・受け止める</li> <li>・認め合う</li> <li>・自信</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感動体験</li> <li>・模倣</li> <li>・想像</li> <li>・創造</li> <li>・発想</li> <li>・共有</li> <li>・共感</li> <li>・自己発揮</li> <li>・工夫</li> <li>・経験の積み重ね</li> <li>・素材や用具の活用</li> <li>・身体表現</li> <li>・豊かな表情</li> <li>・音での表現</li> <li>・なりきる</li> </ul>

②ビデオ研修で保育を振り返り、事例を持ち寄って、教師の援助について考察する。

③保育を可視化するためにドキュメンテーションやウェビングの実践をし、保育の見通しや振り返りをする。

④対話活動を計画的に取り入れ、対話的な学びを深めていく。

<実践事例> 季節はずれのアサガオ 9月

(4歳児)

幼児の姿	教師の援助と環境構成
<p>2学期が始まり、夏休みに育てたヒマワリの植木鉢を持ってきた。そのヒマワリに種があることに気づき、種取りに興味をもち始める幼児がいた。ヒマワリ以外にも園の植物の種を探し、フウセンカズラやマリーゴールド、アサガオなどの種をたくさん集め始めた。</p> <p>学級では集めた種を折り紙でラッピングする遊びがよく見られていた。</p> <p>ある日砂場でA児がB児、C児に泣きながら伝えていた。</p> <p>A児にどうしたのか尋ねると、</p> <p>A児「僕がここに種を蒔いたのに、BくんとCくんが掘ってきたんや」</p> <p>教師「Aくん、砂場に種を植えたの？何の種？」</p> <p>① A児「ここにアサガオの種を蒔いたのに……」</p> <p>教師「Bくん、Cくん、Aくんがアサガオの種をここに蒔いたのに掘り返されたのが嫌やったんだって」</p> <p>「Aくん悲しかったね、でもここ砂場だから皆が毎日スコップで掘ったり、お山を作ったりするよ。種は掘られてしまって大きくなれないかもよ。違う場所探して種を蒔こうか？」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○種を種類ごとに集めることができるように容器を用意する。</li> <li>○誰でも遊びに参加できるように、種の種類を学級で確認したりラッピング折り紙の折り方を確認したりする。</li> </ul> <div data-bbox="1034 1594 1430 1877" data-label="Image"> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○種を蒔くのに適した場所を考えることができるように、問題点はないか問い掛ける。</li> </ul>

A児「うん」  
 教師「どこがいいと思う？」  
 A児「ここは？」砂場の横を示した。  
②D児「皆に踏まれてしまうよ」  
 近くにいたD児も一緒に探し始めた。  
 A児「これは？」砂場の道具のバケツを示した。  
 教師「ヒマワリを植えた植木鉢は水が流れるように穴があいてたけど、これはどうかな？」  
 A児「開いてへん」  
 A児はいろいろな場所を探しながら歩いた。  
③A児「ここにする」A児は木の根もとを指さした。「ここは踏まれへん」  
 そこは土も固く、日当たりも悪かったが、A児は自分で場所を決め、種を蒔いて水をやった。毎日ではないが、A児は思い出すたびに水やりなどの世話をしていた。  
 芽は出ないのではないかと予想していたが、数日たったある日、双葉が出ているのを見つけた。A児はすごく喜んだ。  
 学級でA児の育てているアサガオについて話し、皆で観察にいった。  
 図鑑でアサガオについて調べた。  
④E児「アサガオはこどもの日くらいに種蒔きしたらえんやって」  
F児「葉っぱがハート型みたい」  
⑤学級ではアサガオの咲いた絵をかいたり、種をラッピングしたりして、お花とセットにお店屋さんをしようという話になった。皆でアサガオを折ったり、種をラッピングしたりしながら遊び、A児のアサガオが大きくなることを期待している様子である。



○1学期に体験したことを思い出して考えることができるようにする。



○期待をもって育てることができるようになるように、水やりを忘れているときは声を掛ける。

○興味をもち調べることができるようになるように、図鑑を用意しておく。

○絵や製作物でイメージを広げられるようにする。

学びの姿 (数字は「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」での分類)

**2**自立心 **3**協同性 **6**思考力の芽生え **7**自然との関わり **10**豊かな感性と表現

- ① 1学期にひまわりの種まきをした体験から、アサガオの種も土に植えたら芽が出るのではないかと好奇心や予想、期待をもって砂場に種を蒔いて試している。
- ② 砂場に蒔くと掘り返されてしまった経験から、ここは「掘られてしまうのではないか」という心配に加えて、「踏まれないか」と予測している。
- ③ 教師や他の幼児の意見を取り入れながら、自分なりに考えて種を蒔く場所を決めている。
- ④ 図鑑を見て自分で気づき、発見を喜んでいる。また、それを他の幼児に知らせ、伝える。
- ⑤ アサガオの生長する様子に期待をもち、想像したことを絵や製作物に表現する。友達と一緒に期待感が高まる。

- 7**好奇心
- 6**試行錯誤
- 6**試行錯誤、予想、予測
- 2**自分で考える力、試行錯誤
- 7**探求心、変化に気付く
- 3**思いを伝える
- 7**動植物への愛着
- 10**創造、共有

⑤姫路市立幼稚園教育自主研究会の開催

- ・研究紀要の作成
- ・本園で撮影した保育映像による各園での園内研修
- ・実践発表、指導助言、グループ研修と講演

(3)3年次(令和3年度)の取組

①2年間の研究の実践検証

- ・対話活動が日常的な活動になるように発達段階(3.4.5歳)に合った取り入れ方を工夫する。
- ・ドキュメンテーションやウェビングの活用を継続し、保育の見通しや振り返り、より深い学びになる援助を研修する。

★ウェビング事例 「してみたいこと」



★ドキュメンテーション事例

**どろだんごをつくろう!**

5歳児 6月～10月

**挑戦** 崩れてきた。もう一回つくろう!

崩れたら水をつけたらいいと思う!

**予想**

**言葉による伝え合い**



**発見** さらに砂でつくったら、つくりやすい!!

砂場で泥団子をつくりだしたので、『どろだんご』の絵本を用意すると、「同じもの、つくりたい!」とピカピカの団子をつくり始めました。

考えたり試したりして、どうしたら崩れない団子になるか気付いたか尋ねてみると、「手で団子をギュッと押さえたら?」などいろいろ試しながら、友達と発見したことを伝え合っていました。

さら砂がたくさん必要なことに気づき、役割を決めて作りだしました。

**発見** 団子をたたいたら音がする!



さら砂を何度もかけよう!

**根気強さ**



じゃあ、僕がさら砂つくる!

これ、使っているよ!

**協力**

**役割分担**

## 調べる

布で磨くとい  
って本に書い  
てあった!



さら砂を何度もかけながら、手のひらでこすると、黒光りしてきました。そのことを周りの子に伝えると、刺激を受け、ピカピカにするというめあてをもち、根気強くつくるようになってきました。

遊ぶ時間を十分に設け、どうするとピカピカの泥団子ができるか投げかけてみると、考えたことを試してみたり、本で調べたり、発見したことを友達同士伝え合ったり、協力したりしてつくることができました。友達のつくった泥団子を見て、刺激を受けて泥団子をつくる子が増え、つくった泥団子を「きれい」と認めてもらったことが自信になり、さらに意欲をもってつくり続けています。何度も試し、集中して遊びながら、達成感や充実感を味わえるようにしたいと思います。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
幼児期の 終わりま でに育っ てほしい 姿	健康な心 と体	自立心	協同性	道徳性・規 範意識の 芽生え	思考の芽 生え	社会生活 との関わ り	自然との 関わり・生 命尊重	数量・図 形、文字等 への関心・ 感覚	言葉によ る伝え合 い	豊かな感 性と表現

### ② 小学校との接続に視点をあてた研修

・小学校教育との連携を意識して、子供の学びの連続性を確かなものにしていく保育実践をし、保幼小連携教育研修をする。

### ③ 講師招聘研修

○神戸常盤大学 多田琴子教授

「ドキュメンテーションの作成」

・各学級作成のドキュメンテーションを見合いながら、幼児の行為の中にある思いを読み取る。教育目標につながる育ちの姿、幼児の活動の解説を入れる。

○神戸女子大学 三宅茂夫教授

「アクティブラーニング」の視点（主体的・対話的・深い学び）を踏まえた学びの過程について

・幼児の学びは、非認知能力が重視されるようになり、習得→活用→探求の過程が学びにつながる。

## 4 3年間の研究を終えて

### (1) 成果

#### ① 幼児の学びの読取り

・「幼児の学び」の表を活用して、幼児の学びを意識し、教師の役割を明確にすることができた。また、同じ学びでも多方向に捉えることができ、見る視点や発達段階によって質に違いがあることが分かった。

・実践事例やドキュメンテーションにまとめて保育を可視化することで、幼児と同じ目線で遊びの面白さを味わう大切さや自分の保育に偏りがあることに気付いた。幼児の学びが分かると教師自身も保育をデザインすることが楽しくなっていった。

・教師が遊びの結果だけを見るのではなく、幼児の遊びの過程を大切にしよう意識し、頑張りや挑戦する姿を認めたり、励ましたりすることで更に幼児は意欲的になることを感じた。

## ② 対話活動

・哲学タイムによって、教師や友達がどんな意見も受け入れる環境や雰囲気をつくり、他児の発言や思いを寛容に受け入れるようになった。

・話合いの経験で、少しずつ自分の思いを言えるようになった。幼児なりに考えようとする姿や自分の思いだけでなく、他児の考えも聞きながら話を進め、対話的な学びのある幼児の姿につながった。

## ③ 環境構成

・幼児の興味関心がある遊びや幼児が提案した遊びを広げていくことは、思い入れがあり、すぐに諦めたりせず、何度も挑戦し、試行錯誤しながら自分なりに遊びを進めていく姿が見られた。

・「ひと」を始めとして、「もの」（素材や道具、文化財など）に親しみ、じっくりと試行錯誤できるような時間と空間、自然環境も含めた自由感をもって活動できる環境構成の大切さを再確認した。

## ④ 主体的な活動

・ウェビングやドキュメンテーションを活用することで、幼児自身が見通しをもって遊びに取り組んだり、振り返ったりして、次につなげようとする活動が増えてきた。

・遊びにつまずきが見られたときに、すぐに教師に助けを求めずに、自分もしくは友達と考えて、粘り強く取り組む姿が多くなった。

## (2) 課題

○対話活動「哲学タイム」は、5歳児では実践しやすかったが、発達段階を考えて4歳・3歳での活用方法を研修している。情報交換をして、3年保育の中で連続性のある対話活動を計画・実践していきたい。

○ドキュメンテーションの活用は、遊びの紹介だけでなく、保育のねらいや意図、幼児がどのような気づきをしたのか、どのような発見があったのか、それがどのような学びにつながったのかを書き加えて保護者に発信したい。

○これまで、行事などに向けての教師主導的な保育活動に多くの時間を費やしていた。研究を進める中で、幼児の主体的な遊びがその活動によって中断したり消滅したりしていくことを実感し、保育活動の在り方を見直した。行事が幼児の自然な生活の流れに変化や潤いを与えられるものとなるよう教育課程の再編や年間行事を見直していきたい。

## 5 参考文献

『幼稚園教育要領』 文部科学省 『幼稚園教育要領解説』 文部科学省（フレーベル館）

『幼児理解に基づいた評価』 文部科学省（チャイルド本社）

『中央教育審議会答申 第197号（2016年12月）』 文部科学省

『子ども主体の協同的な遊びが生まれる保育』 大豆生田啓友編著（Gakken）

『あそびから学びが生まれる動的環境デザイン』 大豆生田啓友編著（Gakken）

『語り合いて保育が変わる』 大豆生田啓仁編著・高嶋景子・三谷大紀（Gakken）

『0～5歳児の非認知的能力』 佐々木晃著（チャイルド本社）

『ワクワク！ドキドキ！が生まれる環境構成～3・4・5歳児の主体的対話的で深い学び』

岡上直子編著（ひかりのくに）

『じぶんで考え じぶんで話せる こどもを育てる哲学レッスン』

河野哲也著（河出書房新社）

『子どもに至る』 せんりひじり幼稚園 安達譲共著（ひとなる書房）

『平成29年度 兵庫県国公立幼稚園・こども園教育研究会』 伊丹市立こうのいけ幼稚園